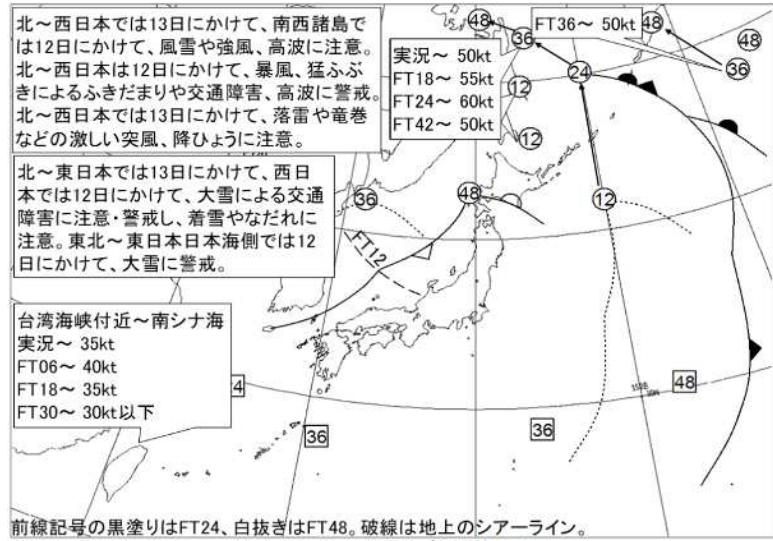


短期予報解説資料 2026年1月11日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5160m付近で-39°C以下の寒気を伴うトラフに対応してオホーツク海と日本海北部に連なる低気圧と、大陸の高気圧との間で、日本付近は冬型の気圧配置が強まっており、日本海寒帯気団収束帶 (JPCZ) が北陸地方を指向。東北日本海側と九州の西海上は気圧の谷となっている。また、500hPa 5460m付近のトラフに対応する前線が日本の東を東北東進。
- ② 強い冬型の気圧配置の影響で全国的に気圧の傾きが大きくなり、強い風や非常に強い風が吹き、海上はしけとなり大しけとなっている所がある。前線やJPCZ



主要じょう乱解説図

及び気圧の谷の周辺で雷を検知、JPCZの近傍では3時間で10～15cmの降雪を観測している所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 11日は、日本付近は強い冬型の気圧配置が継続、JPCZと東北日本海側の気圧の谷はほとんど停滞、日本海北部の低気圧はオホーツク海に進み、九州の西の気圧の谷は南下して不明瞭化。
- ② 12日は、大陸の高気圧が移動性となって東シナ海に移動し、日本付近の冬型の気圧配置は西から次第に緩む。JPCZと東北日本海側の気圧の谷も朝までに不明瞭になる。また、500hPa 4980m付近の寒冷渦に対応して、低気圧が中国東北区付近からウラジオストク付近に進む。
- ③ 13日は、2項②の低気圧が、発達しながら日本海から北日本を通過してオホーツク海に進み、低気圧からのびる寒冷前線が、日本海から北～東日本日本海側に進む。
- ④ 2項①～③の強い冬型の気圧配置や低気圧の影響で、気圧の傾きが大きくなり、強い風や非常に強い風が吹き、海上はしけや大しけとなる所がある。北～西日本では13日にかけて、南西諸島では12日にかけて、強風や風雪、高波に注意。特に北～西日本では12日にかけて、暴風、猛ふぶきによる吹きだまりや交通障害、高波に警戒。
- ⑤ 850hPaの-6°C線は、11日は西～東日本太平洋側に南下、12日は東北地方へ北上、13日は西～東日本日本海側に南下。北～東日本では13日にかけて、西日本では12日にかけて、上空や下層の寒気、JPCZ、気圧の谷の影響で、降雪の強まる所や大気の状態が非常に不安定になる所がある。大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪やなだれ、落雷や局地的には竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。特に、東北～東日本日本海側では12日にかけて、大雪に警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】**
- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
 - ② 降雪量(18時からの24時間)：東北80、北陸・東海70、関東甲信60、北海道・近畿50、中国30、四国7、九州北部5cm。
 - ③ 波浪(明日まで)：東北・伊豆諸島・北陸・近畿・中国7、北海道6、その他広い範囲で5m。
 - ④ 高潮(明日まで)：北～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

「暴風雪と高波及び大雪に関する全般気象情報」を17時頃発表予定。